

えのしまじんじゃごちんざねんりゅうとうろう
1 江島神社御鎮座記念龍燈籠

江の島は弁財天と五頭龍の伝説がある島です。この龍燈籠は「江島縁起」による江の島湧出の時から数え1450年を記念に平成13年（2001年）に建てられました。
 さあ、ここから江の島周遊の旅に出発しましょう。

えしまべんてんばし
2 江の島弁天橋 (橋長389m)

初めて江の島に木橋がかかったのは明治24年（1891年）のことでした。それまでは潮が満ちてくると、片瀬浜から江の島へ渡るには舟か人足の背負いに頼るしかなかったそうです。車道の江の島大橋(橋長324m)は、昭和39年（1964年）に開催された東京オリンピックに合わせて造られたものです。

きねんひ
3 モース記念碑

大森貝塚の発見者として知られるエドワード・S・モース博士は江の島に東洋初の臨海実験所を開設し、わずか1ヶ月の滞在で多くの海洋生物を研究しました。
 江の島は、我が国の海洋生物学の発祥の地とも言えます。

えしま
4 江の島ヨットハーバー

第18回オリンピック競技大会（1964/東京）のヨット競技が開催された際に造られた日本で初めての競技用ハーバーです。東京2020オリンピック競技大会において、ふたたびセーリング競技が開催されました。ハーバーには約1,000隻のヨットが収容されており、2014年6月に新しい江の島湘南港ヨットハウスも完成し、セーリングを楽しむ人々が賑わっています。センタープロムナードには、さざえ島やタイドプールなどの親水施設が整備され、誰もが気軽に海を感じることができるところとなっています。



せいどう とりい
5 青銅の鳥居

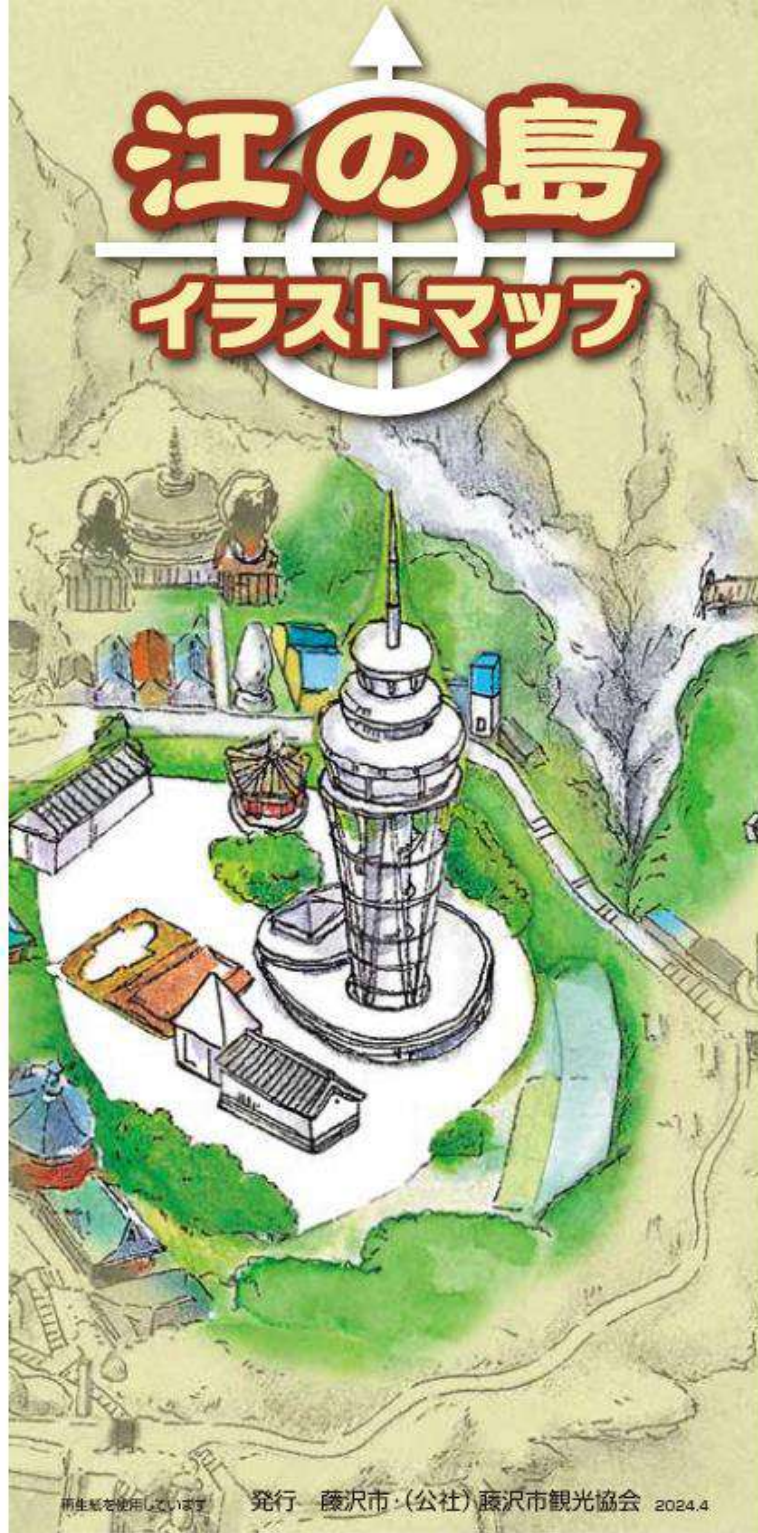
江の島の入口に建つ青銅の鳥居は、市指定文化財です。文政4年（1821年）に再建されたものですが、両柱には数多くの奇進者名が彫られ江戸時代の信仰の広さを今に伝えています。
 掛けられた額には「江島大明神」と記され、鳥居をくぐると土産物屋さんが立ち並ぶ賑やかな参道に続きます。道幅は昔も今も変わっていません。



ながのせんざん くひ
6 永野泉山の句碑

「住みなれて居てもすしや島の月」(恵比寿屋)
 「明治子にもどることしやいわひきぬ」(辺津宮参道)
 島内には明治期の江の島俳壇の中心人物である永野泉山の句碑が2つあります。

江の島 イラストマップ



きゅういわもとしん いわもとろう
7 旧岩本院(岩本楼)

江戸時代までは岩本院と言われ、弁天社の本宮をあずかった一山の総別当とも言われる由緒ある院でした。弁天信仰が盛んだった江戸時代には、勅使、将軍、大名などの宿泊所として栄えました。ちなみに歌舞伎の白浪五人男に登場する弁天小僧は、岩本院の稚児がモデルであると言われています。

すぎやまけんぎょう はか
8 杉山検校の墓

杉山検校は、本名を杉山和一という江戸時代の鍼師です。五代将軍綱吉の病気を治して関東総検校の地位を得ましたが、その時使った管鍼術は江の島弁天から授けられたと伝えられています。お礼に三重の塔を建てると弁財天とは縁の深い人物です。



ふくいし えしまべんてんどうりょう
9 ①福石 ②江の島弁財天道標

①ここで石につまづき転んだ首目の杉山和一は、その時、偶然に木の葉に包まれた松葉が手に触れたことから管鍼術を考案して、後に関東総検校にまで出世しました。
 以後、ここで物を拾うと幸運を授けると伝えられ、福石と呼ばれるようになったそうです。
 ②石柱は、和一が建てた江の島弁財天道標です。



えのしまじんじゃ へつみや
10 江島神社(辺津宮)

島内にある三つの宮=辺津宮・中津宮・奥津宮を総称して江島神社と呼び、それぞれの宮には、海の守護神である女神が祀られています。辺津宮は、田寸津比賣命(タギツヒメノミコト)が祀られ建永元年(1206年)に僧良真が荘厳な社殿に遷宮したのですが、現在の社殿は昭和51年(1976年)に改修されたものです。



ほうあんてん
11 奉安殿
 ほかかべんざいてん みょうおんべんざいてん ほっぴべんざいてん
裸弁財天(妙音弁財天)・八臂弁財天

江の島弁財天は、安芸の宮島、近江の竹生島と並び、日本三大弁財天の一つに数えられるほか、七福神の紅一点としても人々の信仰を集めています。鎌倉時代には戦勝祈願(八臂像)、江戸時代から芸能・音曲上達祈願(二臂像)と信仰目的が変わってきました。奉安殿は平成27年(2015年)に改修されました。
 (拝観料有)



やさかじんじや

12 八坂神社

八坂神社は江島神社の境内社ですが、祭神は、建速須佐之男命(たけはやすさのおのみこと)です。毎年7月に行われる神幸祭(江の島天王祭)は、八坂神社と越後の小動神社の神輿が、年一回、海上渡御を行なう勇壮な祭りで、神奈川の祭り50選にも選ばれています。現在の社は江島神社御鎮座1450年記念事業の一環として平成13年(2001年)に改修されました。



そくくせんらい こひ えしまれいせきこんじ ひ

13 宋国伝来の古碑(江の島霊迹建寺の碑)

將軍支那の命を受けて、元久元年(1204年)に仏教使節として宋国に渡った僧良真は、慶仁神師に師事して我が国に法意を伝えました。帰国の際に神師から授かった碑石を建立したものが霊迹建寺の碑と伝えられています。

ぬまたらすすけ かひ

14 沼田頼輔の歌碑

「さながらに 生けるが如く 見まつりぬ 御神ながらも 肌ゆたかなり」宋国伝来の古碑の隣に建つこの碑には、沼田頼輔が後井財天の美しさを讃えた歌が刻まれています。与謝野晶子の詠んだ長谷大仏美男賛歌と好一対をなしていると評されています。

えのしまじんじや なかつみや

15 江島神社(中津宮)

市寸島比賣命(イチキシマヒメノミコト)を祀っている中津宮は、慈覚大師が仁寿3年(853年)に創建しました。元禄2年(1689年)に再建、現在の社殿は平成8年(1996年)9月に大改修を終えました。江戸歌舞伎中村座・市村座から寄進された石燈籠など、当時の江の島詣での盛況がうかがえます。平成23年(2011年)に正面両側に四季を物語る透板欄間屏、また神域に水琴窟を造り一層神祕さを増しました。



ふるうちもんさいけんきねんひ

16 ①不老門再建記念碑

②古帳庵の句碑 ③間宮霞軒の句碑

①本来はこの場所に不老門がありましたが、今はなく、文久元年(1861年)の再建記念碑だけが残っています。
②「いざここにとまりてきかん ほととぎす」古帳庵 「ふた親にみせたしかつお 生きている」古帳女
③「さし湖の 香を抱く 島の霞かな」江島神社奉納句会を主催するなど、江の島俳壇の隆盛に寄与した間宮霞軒の句碑です。

えしま えん

17 江の島サムエル・コッキング苑 江の島シーキャンドル(展望灯台)

南洋植物をはじめ四季折々の花が植えられた植物園は2022年にリニューアルされました。苑内は国際交流をテーマに藤沢市の姉妹友好都市コーナーが設けられています。また、高さ59.8m、海拔119.6mの展望灯台からは、南に大島、西に富士山、東に三浦半島を望むことができます。(夜間イベント開催時は17時以降有料、灯台昇塔料別途)



津波避難場所



えしまだいし

18 江の島大師

平成5年(1993年)5月に創建された鹿兒島の最福寺(高野山真言宗)の別院です。本堂の赤木彫像は高さ6m。素晴らしい中国刺繍仏画が展示されています。お庭にはカルガモが飛来する陸蓮の池もあり、散策ができます。



ふくしまざよそん くひ

19 福島漁村の句碑

「貝がらも 桜の名あり 島の春」これは、漁村が経営していた江の島船跡地の一隅に建つ句碑です。漁村は、明治時代に活躍した俳人「永野泉山」のもとで歌学や俳諧を学びました。



いつべんしやうにんじやうじゆすいどう

20 一遍上人成就水道

飲料水に窮する島民を助けるために一遍上人が掘り当てた井戸と伝えられ、今も水をたたえています。(現在は周辺が民有地となっているため、見学はできません。)

くんえんほうさいぞうこうしんどう

21 群猿奉養像庚申塔

奥津宮に向かう道の左手に建つ庚申塔は、市重要文化財に指定されている珍しい石塔です。四面に彫り出された猿は全部で36匹。烏帽子姿で扇をかざして舞う猿や綱渡りをする猿、棒乗りをする猿などで愉快です。塔の下部には数匹のヘビが巻き付いています。



でんみなもとのよりとちきん とりい

22 伝源頼朝寄進の鳥居

吾妻鏡によれば「頼朝は養和2年(1182年)奥州平泉の藤原秀衡を調伏するため、京都高尾神護寺の文覚上人に命じて井財天を岩屋に勧請し、参詣の際には鳥居を寄進しました」とあります。

やま だけんぎやうどうぞう けんしやうひ

23 山田検校銅像・顕彰碑

山田流琴曲の鼻祖、山田検校の偉業を讃え、百年忌にあたって像と碑を建てて顕彰したものです。撰文は幸田成行(露伴)、書は小野鷲堂の手により、大正6年(1917年)に建立されました。像はしばらく台座だけの時期もありましたが、平成16年(2004年)に復元されました。

えのしまじんじや おくつみや はっぽうにら かめ

24 江島神社(奥津宮) 八方睨みの亀

多紀理比賣命(タギリヒメノミコト)を祀る奥津宮は、江戸時代まで本宮御旅所(おたびしよ)といい、岩屋のご本尊を奥津宮に移し、4月~10月の間台風等で岩屋内に波が入り込み本尊が流出するのを避けていました。拝殿の天井画「八方睨みの亀」は江戸時代の酒井抱一画で特に有名です。平成23年(2011年)に御社殿を全面的に改修しました。



25 龍宮

奥津宮の隣にあり、岩屋本宮の真上にあたる場所に平成5年(1993年)、崇敬者の御篤志により建てられたお宮です。御祭神は龍宮大神。毎年9月9日に例祭が行われています。江の島は、湧出以来、龍神の坐すところとなり、古来、龍神信仰は井財天信仰と習合されています。その密接なる結び付きは、「江島縁起」を始め、「太平記」等に多く残されています。

たかぎ そうご くひ

26 高木蒼梧の句碑

「夏富士や 晩鐘神を 鎮しむる」春の句が多い江の島の中では、珍しい夏の句として有名です。



りやうれん がね

27 ①龍恋の鐘

②曾禰荒助の碑

①この鐘は、江島縁起「天女と五頭龍伝説」の恋物語にちなんで建てられたもので、その伝説にあやかり、多くの人が鐘を鳴らしに訪れます。
②日露戦争当時の大蔵大臣をつとめた曾禰荒助の記念碑があります。



はしやう くひ はつとりなんかく しひ

28 ①芭蕉の句碑 ②服部南郭の詩碑

①「疑ふな浦の花も浦の春」御岩屋道通りを降り稚児ヶ淵を見下ろす踊り場の右から2番目が芭蕉の句碑です。
②服部南郭は京都に生まれ、江戸に出て寂生宿傑の門に学んだ詩文で有名な人物です。碑には、「石壁に題す」という七言絶句が刻まれています。

ちこがふち

29 稚児ヶ淵

稚児ヶ淵の名は、鎌倉相承院の稚児白菊がこの淵に投身したことに由来しています。ここから眺める晴れた日の夕景は美しく、かながわの景勝50選にも指定されています。

え しまいわけ

30 ①江の島岩屋

②与謝野晶子の歌碑

①長い歳月を経て波の侵食でできた岩屋は、第一岩屋(奥行152m)と第二岩屋(奥行56m)から成ります。洞内では、様々な展示物から江の島が歩んできた歴史と文化の一端を見られます。全長128mの橋からは相模湾とその向こうに広がる富士山・箱根・伊豆方面の景観が一望でき、開放感を満喫できます。

②洞内には江の島を詠んだ与謝野晶子の歌碑があります。「沖つ風 吹けばまたく 蝶の灯に 志づく散るなり 江の島の洞」(入洞料あり)





大きな地震が発生したらだちに、津波避難場所である江の島サミエル・コッキング島などの高台を目標して逃げてください。(地図上⑫参照)



トンボロ

江の島は大きく潮が引くと陸続きになり、この地形をトンボロと呼びます。自然現象のため必ず現れるとは限りませんが4月〜8月頃に現れます。



③1 ① 釈光山龍口寺 ② 龍の口刑場跡 ③ 仏舍利塔

① 日蓮上人が建立した日蓮宗門閥一の霊跡を誇る。境内の奥には明治43年(1910年)建立の五層の塔がそびえています。大木堂、大木殿、五層塔のみが現存しています。

② 建立正安国運を招く霊的処所をしたことにより戦国を越えて最も恐れられた刑場跡。役人が刀を差す時とされた時空を越えて光の塔が現れ、日蓮を祀る。土中で成り立つ。毎年8月12日には龍口法会が盛大に行われます。

③ 日蓮聖人法親王700年を記念して日本山形法寺より寄贈された「ゴゴウの山形」の塔です。中にはお釈迦様の骨が安置されています。ここは、江の島全島が守られる霊地でもあります。



③2 新江ノ島水族館

目の前に広がる絶景海を堪能した大木堂では、緑色に輝く8,000,510マイワシの群れをご覧いただけます。また、世界的に希少なシラスの展示や美しく神秘的なクラゲ展示、カラダの深さ、カフツヤカババウ類展示など見どころが満載。イルカショーも毎日楽しめます。

お得な周遊券情報

お得に周れる周遊券情報はこちら!

駐車場情報

江の島周辺のパーキング情報はこちら!

藤沢市観光センター 藤沢市片瀬海岸2-20-13 TEL.0466(22)4141
 片瀬江の島観光案内所 藤沢市片瀬海岸1-14-8 TEL.0466(24)4141
 藤沢市観光公式ホームページ 藤沢 観光 検索